

特別賞

ホタルの住める環境づくり

御田小学校 五年 廣田篤史

ぼくは、ホタルについて調べました。

調べたきっかけは、ぼくの弟の友達が連れて行ってくれたホタルを見るキャンプでした。それは、熊谷組というグループがやっているキャンプでした。ホタルを見せてもらう前に説明会がありました。熊谷組がダムを作るときに動物や植物がたくさんいたので環境パトロールをして、そこに住むホタルを自分たちの作ったビオトープにうつしたという話でした。

ホタルにはゲンジボタル、ヘイケボタル、ヒメボタル、クロマドボタルなどがあります。

幼虫は体長約3cmぐらいでカワニナなどを食べます。ホタルは卵、幼虫、さなぎ、成虫の時すべて発光します。卵、幼虫、さなぎの時光るのは敵をおどろかすためで、成虫のとき光るのは交尾するためです。

ゲンジボタルのすみかは小川や溪流です。ヘイケボタルのすみかは農薬を使っていない田んぼで、そのままりに雑木林が必要です。ホタルは、いろいろな生き物がすんでいる里山を好みます。

最近では農薬をまく田んぼが多いので、ホタルのすみかが減ってきています。さらにさなぎになるための岸辺がコンクリートで固められていて、さなぎにならないホタルもいます。そして見にくる人にも原因があります。ホタルは明かりを見ると混乱して交尾の相手を見つけれません。かい中電灯や自動車のライトを照らすのはやめたほうがいいです。

農薬を使う田んぼがふえていくと、ホタルが日本からいなくなってしまうかもしれません。だから地域の人と協力して、田んぼを昔のように生き物が住んでいた状態にもどすといいと思います。

ホタルを大切にするためには、ふだんの生活も気をつけなければいけないことがあります。お米のときぎるでお皿を洗ったり、庭の木やプランターの花にまくこと、油をそのまま流しにすてないこと、粉せっけんを使って合成せんざいはなるべく使わないこと、川や池などにごみをすてないこと、水をむだづかいしないこと、花や虫をむやみにとつて殺さないことなどです。

ホタルを見た時、きれいだなと思いました。けれど毎年減っていると聞いて残念だと思いました。人間が自分達の生活を便利にするためにやっていることは、動物の生態をこわす原因になることもあるのだと分かりました。